

Ⅱ 東京府庁舎と東京市役所



東京幸橋内 東京府庁舎

慶応4年(1868)7月17日、明治新政府によって、江戸を「東京」と称する詔書が出されます。これにより、江戸の町奉行所を引き継いだ市政裁判所が廃止され、東京府が置かれることになりました。

最初の東京府庁舎は同年8月、幸橋門内(現千代田区内幸町1丁目)にあった元大和郡山藩柳澤家の上屋敷を改修して設けられました。旧藩邸では執務に不便なことも多く、移転案が早くから立てられました。

建築家妻木頼黄の設計による煉瓦造りの2代目東京府庁舎は、ようやく、明治27年(1894)7月、鍛冶橋内の元高知県邸跡(現千代田区丸の内3丁目)に竣工しました。



2代 東京府庁舎。明治31年からは東京市役所が同居した。

さらに明治31年(1898)10月、府庁舎の東半分を借りて東京市役所が開設されます。昭和18年(1943)7月の東京都発足まで、東京府庁と東京市役所は同じ敷地の中に同居する形で存在したのです。

ここではこの2つの庁舎にスポットを当てていきます。